



「窓」に寄せる思い

「教育に寄せる心を開く小さな「窓」  
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。」

## 大量退職，大量採用時代を迎えた教員の人材育成

所長 渡辺 惣吾

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業により、改めて学校という学びの場が児童生徒はもちろん、保護者、地域にとって、いかに大切なものであるかを考えさせられました。

当教育センターも、様々な感染症対策を行いながら研修を進めています。残念ながら宿泊を伴う研修も1日で実施しており、研修者の皆さんから「もうすこし時間をかけてじっくりと研修したかった」「同じ初任者ともっと情報交換をしたかった」等、研修後の感想をいただいておりますが、御理解いただければと思います。

新学習指導要領が4月から小学校で全面実施となりました。急激な少子高齢化、生産年齢人口の減少、絶え間ない技術革新等による社会構造や産業構造の急速な変化など、我が国にとって将来の予測が困難で、今後厳しい挑戦の時代を迎えている、という背景をもとに今回の改訂は行われています。当教育センターではそれらを踏まえながら、今年度、以下の3つの実践的・開発的な研究に取り組んでいます。

○小・中学校におけるカリキュラム・マネジメント推進に関する研究

○高等学校での学びを意識した小・中学校をつなぐプログラミング教育の在り方

○メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方

今回、コロナ対応等でたいへんお忙しい中、小・中学校の校長先生はじめ多くの教職員の皆さんに、また、初任者の皆さんに御協力いただき、「カリキュラム・マネジメントについての実態調査」、「初任者教員の実態に関する調査」を実施させていただきました。現在、調査結果の集計・分析を進めており、11月の県教育研究発表会で研究の中間まとめを報告させていただきます。

その調査研究の1つである小・中学校におけるメンターチームによる初任者研修については、本県において昨年度から実施しています。文科省のHPをみると、平成30年度には、全国の都道府県等で約45%が実施しており、増加傾向にあります。メンター

制度とは、初任者、ミドル、ベテラン等が互いに学び合う中、それぞれの教員が初任者に関わって指導していく制度であり、中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（2015年12月）では、「若手教員の育成のみならず、ミドルリーダーの育成の観点からも有効な取組である」と紹介されています。キャシー・グラムは、メンターチームで行われるメンタリング行動が果たす機能を、キャリア的機能と心理・社会的機能の2つに分類しており、特に初任者の悩みや不安な点への効果は大きく、心理・社会的機能は重要な機能を果たしているようです。メンターチーム実践のフロンティア、先進地である横浜市教育委員会は、次のような導入の効果を挙げています。

○メンティ（初任者等、若手教員）への効果

「職場満足感の向上」「バーンアウトの抑制」「課題解決の促進」「職務上の能力形成」「若手教員同士の仲間意識の向上」等

○メンター（中堅、ベテラン教員）への効果

「メンター自身の学習」「キャリア形成への意欲」「コミュニケーション能力の向上」「人的ネットワークの広がり」「仕事の意義の明確化」等

また、学校組織への効果として「職場の人間関係の深まり」「職場のプラス面での変容が児童・生徒にも影響する」等を挙げている県もあります。

このような効果の一方、教科の専門性をいかに高めるか、子どもの学びへのつながりが希薄になっていないか、などの課題もあるようです。

ここでは小・中学校におけるメンター方式について紹介させていただきましたが、拠点校方式、一人配置校方式も含めた初任者研修は、明日の福島の教育を担う人材育成として重要な研修です。「教員は組織の中で成長する」と言われますが、教員の大量退職、大量採用時代を迎え、教員の力量形成を、学校、教育委員会、大学等の皆さんと力を合わせながら、共に頑張っていきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

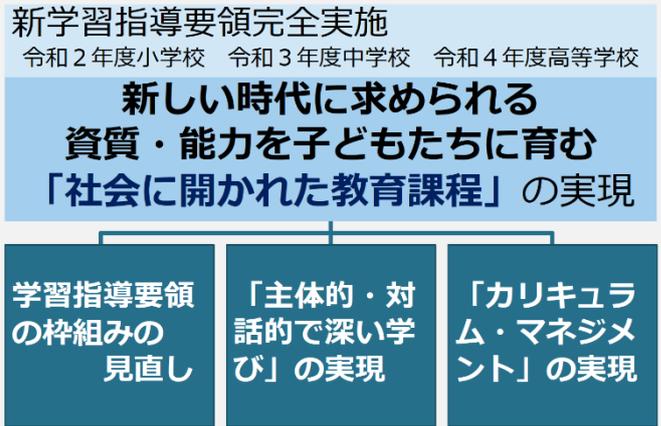
編集発行： 福島県教育センター 〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地  
TEL 024-553-3141 (代表) FAX 024-554-1588  
URL <https://center.fcs.ed.jp/> E-mail [center@fcs.ed.jp](mailto:center@fcs.ed.jp)

# 小・中学校における カリキュラム・マネジメント推進に関する研究

ーカリキュラム・マネジメント実施調査と推進方法の提案（第一年次）ー

新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示されました。

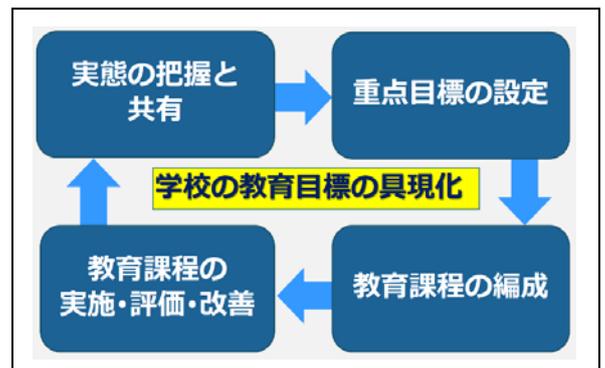
そのために、学習指導要領の枠組みの見直し、「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の実現が求められています。当チームでは、「カリキュラム・マネジメント」の実現に焦点を当てて研究を進めているところです。



## カリキュラム・マネジメントとは？

カリキュラム・マネジメントは、簡潔に言えば、「学校の教育目標を実現するため、教育課程を編成・実施・評価・改善する営み」のことです。

カリキュラム・マネジメントは、管理職や一部の教員だけではなく、組織として進めていくことが求められています。



カリキュラム・マネジメントの流れ

## 本年度の研究内容



一年次である本年度は、県内の公立小・中・義務教育学校におけるカリキュラム・マネジメントの実施状況調査を実施しました。また、伊達市の堰本小学校と梁川中学校の御協力のもと、小・中学校それぞれの実態に応じたカリキュラム・マネジメントの推進方法を研究しています。

## 1 カリキュラム・マネジメント実施状況調査

県内の公立小・中・義務教育学校の教職員（管理職・教諭・養護教諭・事務職員）、6322名に回答いただきました。これは、県内の6割を超える先生方から回答を得たこととなります。今後は、調査結果の分析を進めるとともに、見えてきた課題を踏まえながら研究協力校での取組を進めることで、県内の多くの学校で活用していただける「カリキュラム・マネジメント推進モデル」として提案していきたいと考えております。なお、調査結果の詳細は、今後、県教育研究発表会や教育センターWebページ上で発信していく予定です。

調査への御協力  
ありがとうございました！



## 2 研究協力校での取組

研究協力校では、「『資質・能力の育成』につながるD-CAPサイクル」という戦略のもと、校種や実態に応じたカリキュラム・マネジメントを推進しています。

### D-CAPサイクルとは？

通常のPDCAサイクルでは、教育活動の反省が学期末や年度末にまとめて行われるため、せつかくの気づきが反省に生かしきれない問題がありました。D-CAPサイクルでは、教育活動実施（D）後の、評価（C）、改善（A）、計画（P）を、（CAP）というひとまとまりとしてとらえ、一気に行うことにより、マネジメントサイクルがより効率的・効果的に機能するようにしたものです。

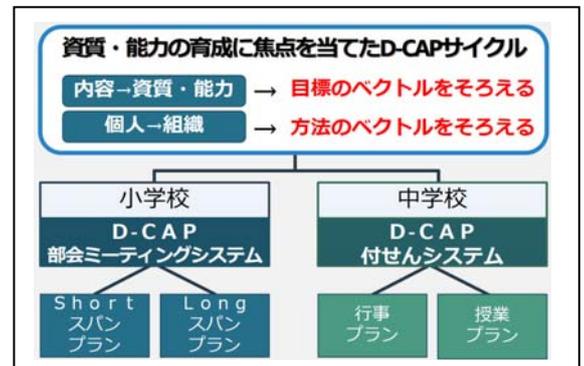


## カリキュラム・マネジメント推進のための2つのポイント

### 【ポイント1】目標のベクトルをそろえる

大切なことは、学校として育みたい資質・能力が明確であること。そして、それが教職員で共有されていることです。協力校においては、「重点目標の達成」を目指し、この一点突破でカリキュラム・マネジメントを推進しています。

目標のベクトルがそろえることによって、一本筋の通った教育活動が展開されることとなります。



校種に応じたD-CAPシステム

### 【ポイント2】方法のベクトルをそろえる

カリキュラム・マネジメントは、組織全体で行ってこそ、子どもたちの力を最大限に引き出すことができます。協力校では、校種や学校の実態にあった方法で、D-CAPサイクルを回し、教育活動の質の向上を図るとともに、教育課程の編成や業務の効率化につなぐための取組を進めています。

方法のベクトルをそろえるとは、例えるなら、これまで点や線として取り組まれてきたことが、面としての広がりをもったととらえることができます。



堰本小学校「目指す姿の評価規準」

### 堰本小学校の先生のお話



学習発表会を例にあげると、これまで、変なものは見せられないという思いから、教師主導になりがちでした。でも、子ども主体で考え、子どもが満足する場であれば、目指すものに近づけると思いました。

カリキュラム・マネジメントは、私たちの意識改革なのだと思います。

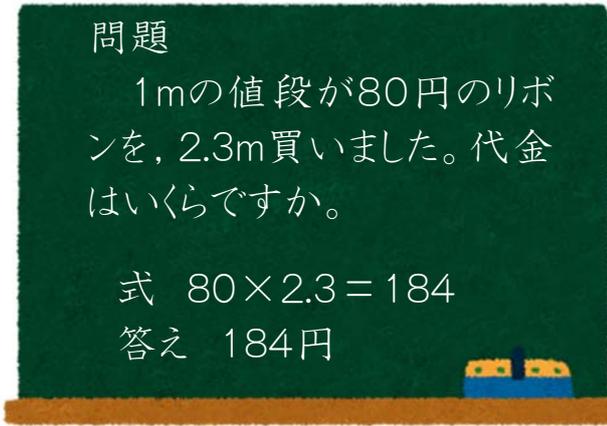


梁川中学校の話し合いの様子

# 何 個 分 では語れない かけ算の は な し

問題  
1mの値段が80円のリボンを、2.3m買いました。代金はいくらですか。

式  $80 \times 2.3 = 184$   
答え 184円




## 小数のかけ算の授業後の研究会のひとコマ・・・



まとめは、「代金」を求めるときは、整数のときと同じように、「1mの値段」×「買った長さ」で求めることができる、としました。

私は、「×『買った長さ』」というのが少し気になります。「【値段】に【長さ】をかける」というのはどういうことでしょうか。



「80円の2.3個分」と考えるのはどうでしょうか。

「80円の2.3倍」とも考えられますよ。



だとすると、「2.3個分」も「2.3倍」もどちらも【長さ】ではないので、「×『買った長さ』」は間違いでしょうか。

まず私たちが、「×2.3」の「2.3」の持つ意味を正しく理解する必要がありますね。

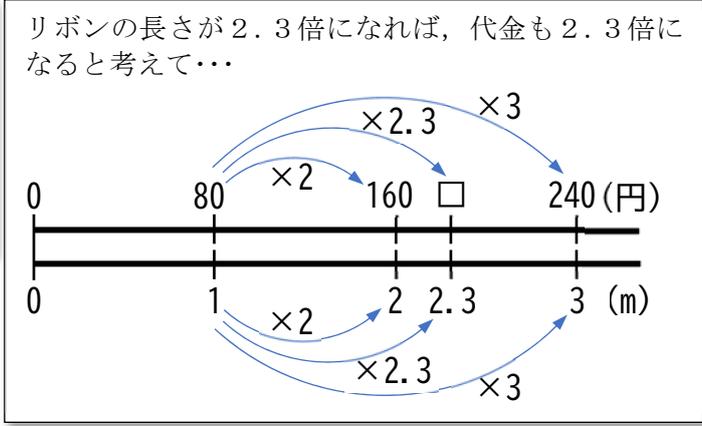
## ことばの式や比例の考えを使えば式は類推して考えることができるが、小数をかけることはどういうことかの説明にはならない。

2m.....	80	×	2	=	160
3m.....	80	×	3	=	240
2.3m...	80	×	2.3	=	□

買った長さが、整数のときと同じように考えれば・・・

1mの値段	×	買った長さ	=	代金
-------	---	-------	---	----

ことばの式や比例の考えを使えば式は類推して考えることができます。ただ、乗数が小数の場合も、整数のときと同じ考えで本当に  $80 \times 2.3$  と立式してよいのか、この時点では明らかではありません。



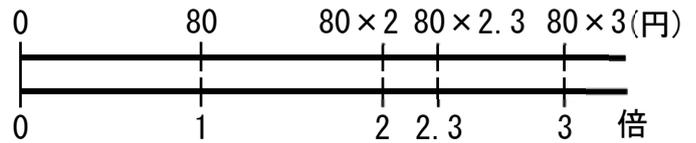
したがって、乗数が小数でも  $80 \times 2.3$  と式に表してよいのか、その場合、小数をかける意味はどのように考えればよいか明らかにする必要があります。

**乗数が整数のかけ算の意味をとらえ直して、「かけ算とは割合に当たる大きさを求める計算である」と考える。**

乗数が小数のかけ算の意味を正しくとらえるために、乗数が整数のかけ算に戻ります。×2には「2個分」と「1mをもとにすると2倍に当たる」という2つの意味がありました。2m, 3mはそれぞれ1mをもとにすると、2倍、3倍に当たることから、2.3mは1mをもとにすると2.3倍に当たると言えます。数直線を用いると、割合が2のときは $80 \times 2$ 、割合が3のときは $80 \times 3$ と表すことができることから、割合が2.3のときも $80 \times 2.3$ と立式すると考えることができます。

$80 \times 2 = 80 + 80$   
 $80 \times 3 = 80 + 80 + 80$   
 $80 \times 2.3 = 80 + 80 + \dots ??$

何個分にならない!!

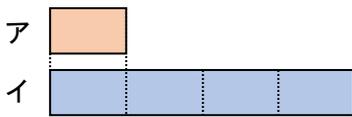


- ・ ×2.3の「2.3」は割合が2.3であるという意味である。
- ・ 80に2.3をかけることは、80円を1とみたとき、2.3にあたる代金を求めることである。

**「倍」、「～を1とみたとき、○にあたる量」という見方を経験させるチャンスはこんなにあります！**

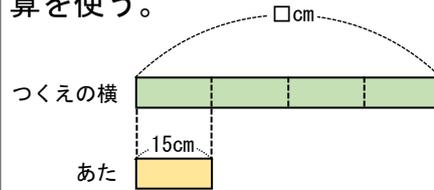
**小学2年【乗法】**

イのテープの長さは、アのテープの何ばいかであらわすこともできる。



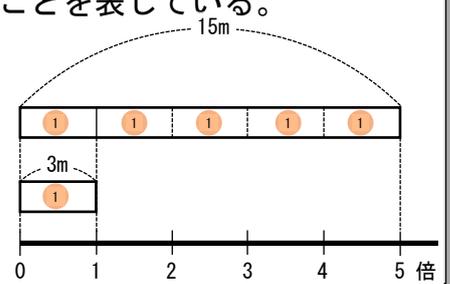
**小学3年【倍の見方】**

もとにする大きさの4倍の大きさをもとめるときは、かけ算を使う。



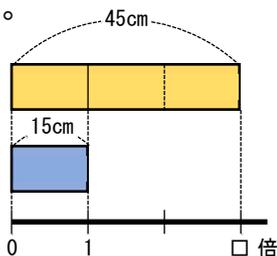
**小学4年【整数の除法】**

5倍というのは、3mを1とみたとき、15mが5にあたることを表している。



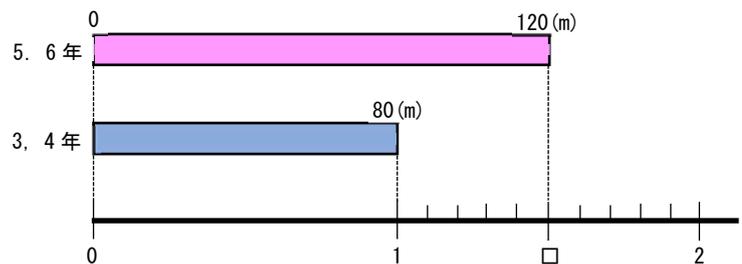
**小学4年【簡単な場合の割合】**

もとにする大きさを1とみたとき、くらべられる大きさがどれだけにあたるかを表した数を、割合といいます。



**小学4年【小数の仕組みとその計算】**

1.5倍というのは、80mを1とみたとき、120mが1.5にあたることを表しています。



# 長期研究員の研究紹介

当センターには15名の長期研究員がおり、学校教育の今日的課題について理論的、実践的な教育研究を行っています。年度末には研究の成果を発信しますので、県内の先生方の実践にぜひ活用していただきたいと考えています。今回は、その研究内容を紹介します。

## 国語科

### 研究主題 (R1・R2)

「自分の考えを適切に書く力」を育成する国語科学習指導の在り方ー「子どもとともに作るルーブリック」を生かした授業づくりを通してー

樽井 奈緒子 (川俣町立福田小学校)

児童と教師が共につくったルーブリックを基に、自他の作品を客観的に評価し合うことで、「よりよい書き方」を自覚して使う力の育成を目指しています。



## 国語科

### 研究主題 (R1・R2)

論理的に考えを形成する国語科学習指導の在り方ー「理由」の適切さを検討させる学習活動を通してー

佐藤 聡嗣 (小野町立小野中学校)

「理由」の適切さを互いに検討しあう場を設けることで、学習過程を通して理解したり考えたりしたことを基に、論理的に考えを形成する生徒の育成を目指しています。



## 国語科

### 研究主題 (R2)

情報を結び付けて思考し、新たな視点から解釈する力の育成ー文学的文章教材と複数の資料を関連付けた読解を通してー

村松 こずえ (福島県立白河実業高等学校)

複数の資料(情報)を活用し、「新たな視点」を獲得する面白さを実感しながら文学的文章の解釈を深められるよう、段階的に資料を活用する実践を行っています。



## 社会科

### 研究主題 (R1・R2)

小学校社会科における地域との関わりを見いだす授業づくりー「未来に伝えたい広野」を考える広野町物語づくりを通してー

松本 哲幸 (広野町立広野小学校)

「未来に伝えたい広野」を考える広野町物語づくりを通して、地域のために自分にできることは何かを考えるなど、社会への関わり方を選択・判断する力の育成を目指しています。



## 算数科

### 研究主題 (R2・R3)

統合的・発展的に考える力を育む算数科授業づくりー問いを連続させる授業展開の工夫ー

野地 吾勝 (二本松市立大平小学校)

児童の問いが連続するような問題場を設定し、問い返しや児童の考えの可視化をすることで、統合的・発展的に考える力を育む授業を目指しています。



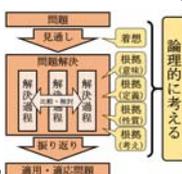
## 数学科

### 研究主題 (R1・R2)

論理的に考え、数学的に表現する力を育む学習指導の在り方ー解決の見通しをもたせ、根拠を明確にさせる活動を通してー

高橋 良太 (飯館村立いいたて希望の里学園)

問題を工夫することで解決のきっかけとなる着想を引き出したり、考える視点を焦点化することで根拠を明確にさせたりすることを通して、論理的に考え、数学的に表現する力を育むことを目指します。



## 数学科

### 研究主題 (R2)

数学を活用する力を育成する高等学校数学科の授業の在り方ー日常生活や社会の事象を取り入れた単元づくりを通してー

森田 健二 (福島県立須賀川高等学校)

単元の学習の中に、日常生活や社会の事象を計画的に取り入れ、生徒同士で批判的に考察し、問題解決する過程を通して、数学を活用する力を育成する授業を目指します。



学校名は、所属校(研究協力校)です



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

## 理科

### 研究主題

(R1・R2)

見通しをもって問題解決する理科学習指導－課題意識を伴った実験計画と、思考のつながりを大切にしたい学習過程を通して－

一ノ瀬 辰徳（西郷村立米小学校）

課題意識を伴った主体的な実験計画と、振り返りによる学びの自覚を通して、見通しをもって実験を行い、科学的に問題を解決する中で学ぶことができる児童を育てます。



## 理科

### 研究主題

(R1・R2)

科学的な根拠を基に考察できる中学校理科指導の在り方－一人一人に明確な仮説をもたせ検証させる活動を通して－

弓田 一彰（いわき市立中央台南中学校）

解決すべき課題に対し「明確な仮説を立てて検証する」探究の過程を一人一人に確実に歩ませていくことで、科学的な根拠を基に考察できる生徒を目指します。



## 理科

### 研究主題

(R2)

原理・法則に基づいて思考する力を育む高等学校物理学分野の実践－仮説設定の習得・活用の2段階プロセスと対話活動を通して－

田村 圭（福島県立保原高等学校）

段階を踏んで仮説の設定方法を学習し、対話活動を通して、原理・法則に基づいて思考する力の育成を目指しています。設定した仮説は検証実験で確認し、結果を考察しています。



## 英語科

### 研究主題

(R2・R3)

物事を多面的にとらえ、まとまりのある英文を書く力を育成する学習指導の在り方－生徒の「気付き」を促す学習プロセスを通して－

齋藤 崇（会津若松市立第五中学校）

物事をとらえる視点への気付きや英語表現への気付き、読み手を意識した文章構成への気付きを促すことで、まとまりのある英文を書く力の育成を目指しています。



## 英語科

### 研究主題

(R2)

外国語科において、考えを論理的に書く力を育む学習指導の在り方－協働的・段階的なプロセスを重視したエッセイ指導を通して－

赤岡 奈津美（福島県立福島南高等学校）

対話による思考の整理、英語の論理展開を可視化したワークシートの活用、気付きを促す振り返りを通して、考えを論理的に書く力の育成を目指しています。



## 教育相談

### 研究主題

(R1・R2)

居心地のよい学級集団づくりの指導の在り方－解決志向アプローチを生かした学級目標達成のプロセスを通して－

齊藤 雄策（福島市立瀬上小学校）

学級の目指す姿を共有し、自分たちの「できていること」に目を向け、一人一人が目指す行動を増やしていくことで学級目標達成（居心地のよい学級集団）を目指しています。



## 教育相談

### 研究主題

(R2)

高校生における被援助志向性の向上を図る指導の在り方－自己理解の深化と援助要請の体験的理解を通して－

國分 千尋（福島県立福島高等学校）

セルフモニタリング等による自己理解の深化やロールプレイ等による援助要請の体験活動を通して誰かに援助を求めたいときに援助要請ができる生徒の育成を目指しています。



## 情報教育

### 研究主題

(R1・R2)

探究のプロセスで情報活用能力を育む授業の在り方－総合的な学習の時間における情報を吟味する活動を通して－

佐久間 基（いわき市立玉川中学校）

情報発信者としての目的意識をもち、自身の情報活用を客観的に評価・改善しながら自分の考えを形成していく活動を通して、情報活用能力を育成することを目指します。



紹介した長期研究員による各研究の詳しい内容につきましては、「令和2年度研究紀要第50集」に掲載いたします（年度末完成）。なお、これまでの研究紀要を参考にされたい方は、当センターのWebサイトから御覧いただけます。どうぞご利用ください。

<https://center.fcs.ed.jp/>



# 令和2年度福島県教育研究発表会

～ 明日の 福島の 教育をつくる ～



当センターでは、県内公立学校教員の優れた教育研究・実践及び当センターの研究の成果を基に、発表や意見交換等を通して本県学校教育の向上に資することをねらいとして教育研究発表会を実施しています。

今年度は、教育課程、教科指導、教育相談、情報教育等について、6会場12件の研究・実践発表と講演会を予定しています。

講演会は、福島大学教育推進機構高等教育企画室特任准教授 前川 直哉氏を講師に招き、『新しい学び 福島から』のテーマでご講演いただきます。

**期 日** 令和2年11月26日(木) 9:40～15:15  
**会 場** 福島県教育センター(福島市瀬上字五月田16)  
**参加申込** 10月初旬の二次案内及び当センターWebサイトに掲載する方法によって、申込みをお願いいたします。

なお今年度の参加者は、小・中学校初任者研修、養護教諭経験者研修Ⅰ、小・中・高等学校経験者研修Ⅱ、養護教諭経験者研修Ⅱ、学校栄養職員経験者研修Ⅱの研修として、当発表会を選択した本県教職員としております。

当発表会を選択した方は、申込みをお願いします。



## 教育センターWebサイトの御案内

当センターは新型コロナウイルス感染症対策のため、研修の日程及び内容の変更・組み替えを行っており、研修者の皆様にはそれらの内容をWebサイトでお知らせしております。

加えて、当センター利用の際の新型コロナウイルス感染症対策の協力依頼も掲載しておりますので、御利用の際は御一読ください。また、出前講座の申し込み、専門研修の受講後アンケート等の入力フォームに加え、今年度より、学習支援サイトも開設しております。

今後も県内の教職員など多くの皆様に御利用いただけるWebサイトづくりを目指し、内容のさらなる充実を図り、より活用しやすい情報提供を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。スマートフォンやタブレットにも対応したものとなっております。

福島県教育センター URL : <https://center.fcs.ed.jp/>



教育センター  
Webサイト